

改訂の序

本書「呼吸・心臓リハビリテーション」の初版は2009年（平成21年）に出版され、その後5回の増刷を重ね、このたび第2版となる「呼吸・心臓リハビリテーション 改訂第2版」を出版する運びとなった。初版が出版されてから6年が経過する。

本書は、呼吸・循環器系疾患が醸し出すさまざまな病態・障害像に対し、医療現場を始めさまざまな場面で直ぐに役立つ実践的教科書本として、「呼吸器障害のリハビリテーション」では間瀬教史氏、「循環障害のリハビリテーション」では高橋哲也氏という著明なお二人に執筆いただき、大変多くの方にご活用いただくことができた。

このたび、この分野における新たな知見・解釈・基準などの変化に伴い、全体をより理解しやすくなるように見直しを行い、体裁を整えた。また、内容も最新の情報に変更・加筆し、図表や画像、参照文献なども新たに付け加えた項目もある。特に、呼吸器障害のリハビリテーションでは、読者の希望が多かった「喘息」について新たに項立てて加筆願った。

先頃、以前に勤務していた病院の循環器内科の専門医より、循環障害のある患者のリハビリテーションを進めるのに、初版を随分参考にしているとの言を頂戴した。元来、読者の対象として療法士学生の教育はもとより現場の理学療法士を中心に置いたが、作業療法士や看護師など、他の医療職にも十分に利用していただける内容となっていることを付け加える。

この分野における意義深い教科書として、ご利用いただければ幸いである。

2015年4月

居村茂幸